

食品安全委員会における リスクコミュニケーションの課題

内閣府食品安全委員会事務局
リスクコミュニケーション官

小平 均

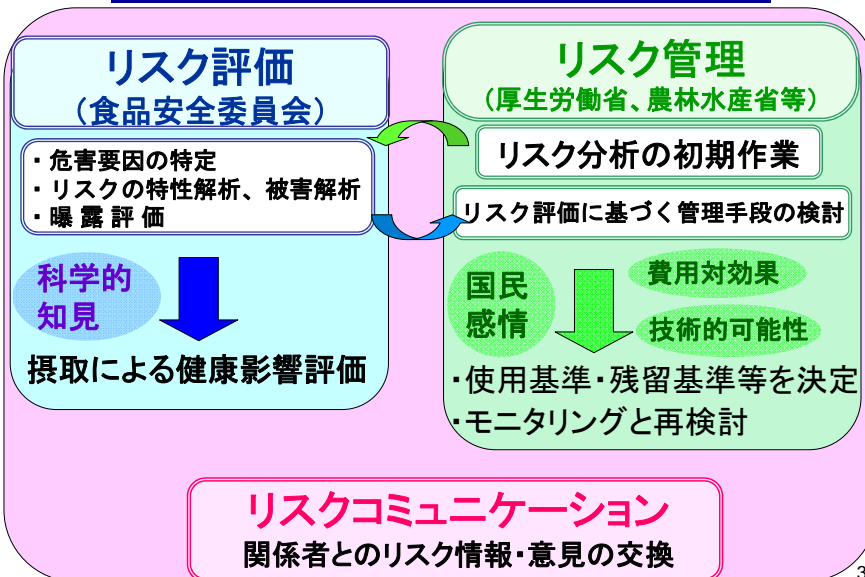


Issues on Food Safety Risk Communication in Japan

Hitoshi KODAIRA
Director of Risk Communication,
Food Safety Commission Secretariat,
The Cabinet Office

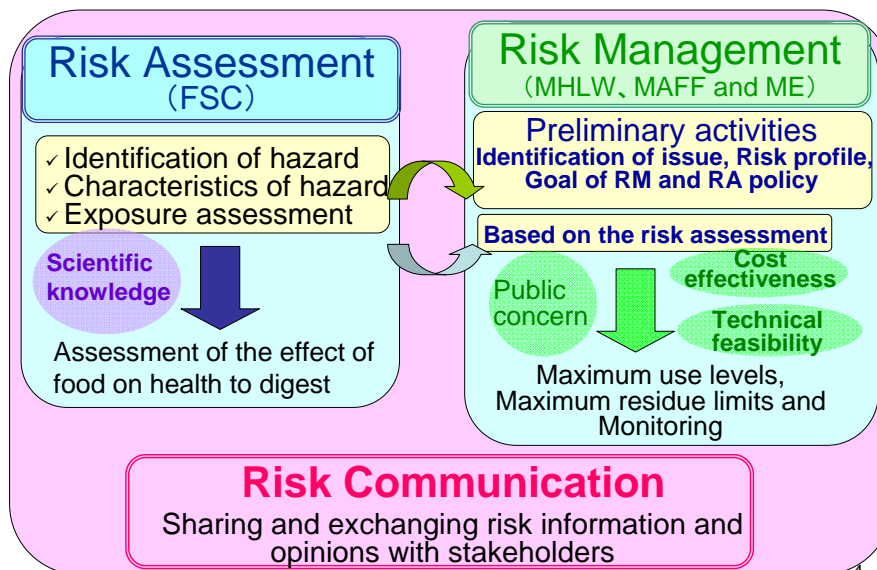


リスク分析の三要素



3

Elements of Risk Analysis



4

食品健康影響評価(リスク評価)の審議状況

区分	要請件数 (自ら評価も含む)	評価終了件数
添加物	80	63
農薬(ポジティブリスト関係、清涼飲料水含む)	369	139
動物用医薬品(ポジティブリスト関係含む)	247	159
化学物質・汚染物質(清涼飲料水含む)	51	11
微生物・ウイルス	4	3
プリオン	13	11
遺伝子組換え食品等	67	60
新開発食品等	65	54
その他	32	27
合計	928	527

◆食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価案件も含む

平成20年1月30日現在⁵

Current Deliberation on Food Risk Assessment

Hazard	Requests from RM	Assessment complete
Food Additives	80	63
Pesticides including positive list items and residues in soft drinks	369	139
Veterinary Medicines including positive list system	247	159
Chemical/Substances Contaminants including residues in soft drinks	51	11
Microorganisms/Viruses	4	3
Prions	13	11
GMO, and other related agents	67	60
Novel Foods	65	54
Others	32	27
Total	928	527

◆It is included self tasks assessment by FSC

30, 01, 2008⁶

専門調査会

～平成19年2月4日現在

企画 : 22回
 リスクコミュニケーション : 35回
 緊急時対応 : 23回

添加物 : 54回
 新開発食品・添加物合同WG : 4回

農薬 : 147回 (うち旧専門調査会43回)

- 幹事会 : 34回
- 総合評価第一部会:18回
- 総合評価第二部会:18回
- 確認評価第一部会:13回
- 確認評価第二部会:10回
- 確認評価第三部会:11回

動物用医薬品 : 88回
 器具・容器包装 : 9回
 化学物質・汚染物質専門調査会 : 1回
 清涼飲料水部会 : 1回

微生物・ウイルス専門調査会: 2回
 微生物・ウイルスWG : 1回
 プリオン : 47回
 かび毒・自然毒 : 8回
 遺伝子組換え食品等 : 56回
 新開発食品 : 50回
 新開発食品WG : 1回
 肥料・飼料等 : 25回

◆ 各専門調査会は原則公開で開催されますが、「企業の知的財産等が開示され特定の者に不当な利益若しくは不利益をもたらすおそれがある場合」には非公開で開催することができます。

7

Number of Meetings on FSC Expert Committees

4th Feb, 2008

Planning : 22
 Risk Communication : 35
 Emergency Response : 23

Food Additives : 54
 Joint WG on novel foods & food additives : 4

Pesticides : 43

- The advisory committee : 34
- 1ST integrated assessment panel:18
- 2ND integrated assessment panel:18
- 1st validated assessment panel:13
- 2nd validated assessment panel:10
- 3rd validated assessment panel:11

Veterinary medicine : 88
 Apparatus/containers & Packages:9
 Chemical substances & Contaminants:1
 Panel on residues in soft drinks : 1

Microorganisms & Viruses: 2
 Joint WG on Microorganisms & Viruses : 1
 Prions : 47th
 Natural toxins & mycotoxins & other toxins : 8

Genetically modified foods : 56
 Novel foods : 50
 WG on novel foods : 1
 Feed & fertilizer : 25

◆ All of the meetings of the expert committees, panels and WG are basically open to the public but otherwise " if the business is/can be infringed their intellectual property right".

8

食品安全委員会のリスクコミュニケーションの取組

(食品安全委員会設立以来～2008年1月末日現在)

- ◆ 委員会の原則公開、配布資料及び議事録等のホームページへの掲載
- ◆ 食品健康影響評価等に対する国民からのご意見、情報の募集:299回
- ◆ 意見交換会:314回(関係省・自治体等と連携)
- ◆ 消費者団体、食品関連事業者、地方公共団体等と委員との意見交換:33回
- ◆ **食品の安全性に関する地域の指導者育成講座・リスクコミュニケーター育成講座の開催**
- ◆ 全国食品安全連絡会議の開催(年度ごと)
- ◆ 食品安全モニター会議:47回(平成15～18年度:37回)
- ◆ リスクコミュニケーション担当者会議の実施:毎月2回程度
- ◆ ホームページ、パンフレット、季刊誌『食品安全』、DVDの作成
- ◆ 食の安全ダイヤル TEL:03-5251-9220・9221
- ◆ 食品安全委員会メールマガジン(食品安全委員会e-マガジン)の配信(毎週1回)

9

FSC engagement for Risk communication

(～31, 01, 2008)

- ◆ Every meetings on FSC and other expert committees basically open to the public and every minutes and the references are on the web
- ◆ Calling public opinions for the food safety risk assessments e.g. :299 issues
- ◆ The public meetings:314 times(including the collaboration with related administrations and local governments)
- ◆ Dialogue between consumer groups, food industries, the local governments and so on:33 times
- ◆ **Organizing "Local Food Safety Leader Training Course" and "Risk Communicator Training Course"**
- ◆ National Food Safety Administrators Conference (Once a year)
- ◆ Food Safety Monitor Meeting :47times (2003-2007:37times)
- ◆ Food Safety Administrators Meeting (FSC, MAFF,MHLW, MOE): 2times per month
- ◆ FSC Web-site, Brochures, Quarterly "Food Safety"
- ◆ Food Safety Hot Line TEL:03-5251-9220・9221
- ◆ FSC e-mail Newsletters(Once a week)

10

FSCのリスクコミュニケーションに参加している人とは？

情報提供・情報の共有を目指して

- ・ホームページ
- ・パンフレット・リーフレット、季刊誌「食品安全」
- ・DVDの作成 等

どんな人が興味を持ってFSCの情報を入手しているのか？



もともと食品安全に対して興味を持っている人

もともと食品安全や食品安全行政に関心の高い人しか、アクセスしていないのではないか？

幅広く市民との情報の共有はどのように進めれば良いのか？？

Who are the Participants of FSC Risk Communication ?

Aiming toward Information Provision and Sharing

- ・ Web-site
- ・ Brochures, Quarterly "Food Safety"
- ・ Making DVD

Who are interested in FSC food safety information and get it?



They might have certain interest in food safety issues from the beginning.

It may only people, who intrinsically have high interest on food safety issues and the administration, access the information ?

How we can get across the information sharing with more broader public ? ?

パブリックコメントの募集

意見募集

意見募集の結果について

注 本頁に記載されている「公表資料」は意見募集時のものです。最終結論については、「[食品安全委員会に対し意見を求められた案件](#)」の「通知文書等」の中にある評価書をご覧ください。
御意見・情報もお寄せいただいた方々の御声援をありがとうございます。

案件名	募集期間	公表資料	意見・情報等の応募状況
プロテオソムに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について			
プロテオソムを有効成分とする牛の注射剤(メダコソル)の再審査に係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について			
エトキサゾールに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について			
カフェストールに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について			
メフェソッドに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について			
インプロゾオラムに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について			
コリスチンに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について	(平成20年1月10日)		ありませんでした。
エスプロカルブに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について	平成19年12月19日 (平成20年1月11日)	公表資料PDF	意見・情報等の応募はありませんでした。
シエピゾラムに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について	平成19年12月19日 (平成20年1月11日)	公表資料PDF	意見・情報等の応募はありませんでした。
シラフルオフェンに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について	平成19年12月19日	公表資料PDF	意見・情報等の応募は

評価案に、意見・情報等が寄せられるものが少ない。

- ← 科学的に妥当だから？
- ← 難しすぎる？
- ← 単に社会的に注目されていないから？

例外：BSE、大豆イソフラボン など

- ← しかし、ほとんどが、政策的・文化的・行政への不信についての意見
- ← 管理措置に関することについては、FSCとして、いただいたご意見についてはリスク管理機関にお伝えすることになる。

Inviting Public Opinion for the assessment

意見募集

意見募集の結果について

注 本頁に記載されている「公表資料」は意見募集時のものです。最終結論については、「[食品安全委員会に対し意見を求められた案件](#)」の「通知文書等」の中にある評価書をご覧ください。
御意見・情報もお寄せいただいた方々の御声援をありがとうございます。

案件名	募集期間	公表資料	意見・情報等の応募状況
プロテオソムに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について			
プロテオソムを有効成分とする牛の注射剤(メダコソル)の再審査に係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について			
エトキサゾールに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について			
カフェストールに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について			
メフェソッドに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について			
インプロゾオラムに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について			
コリスチンに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について	(平成20年1月10日)		ありませんでした。
エスプロカルブに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について	平成19年12月19日 (平成20年1月11日)	公表資料PDF	意見・情報等の応募はありませんでした。
シエピゾラムに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について	平成19年12月19日 (平成20年1月11日)	公表資料PDF	意見・情報等の応募はありませんでした。
シラフルオフェンに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集について	平成19年12月19日	公表資料PDF	意見・情報等の応募は

There are few of the opinions and information.

- ← It can be appropriate in terms of science?
- ← Not easy to understand?
- ← Simply not so catchy that cannot invite social attention ?

Exception : BSE, Soy isoflavone e.g.

- ← However almost were political, cultural opinions and compliments for the administration
- ← the opinions for risk management, FSC just said “ We will pass it to risk management agencies”

意見交換会は市民参加として機能しているのか？

- ・ 評価案に対する意見交換会
- ・ 地方自治体と共催したリスク分析の考え方に関する意見交換会
- ・ リスクコミュニケーションを普及させるため「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座」「リスクコミュニケーター育成講座」



もともと食品安全や食品安全行政に関心の高い人、自分の信念・意見を述べたい限られた人のみの出席になりがち

幅広く市民の参加を促すためにはどのようにすればいいのか？

15

Public meeting can really function well as public involvement process ?

- ・ Public meeting for FSC scientific risk assessment
- ・ Public meeting for disseminating risk analysis principle in collaboration with the local governments
- ・ “Local Food Safety Leader Training Course” and “Risk Communicator Training Course” in order to enhance risk communication activities in local level



However the attendees have originally high interests for food safety and the administration so that they just want to speak their own beliefs and opinions without any acceptance of other views.

How we can get through much broader public in order to enhance their involvement ?

理想的な行動のためには多大なエネルギーが必要・・・

- **行政**は、市民への知識を浸透させてから、対策等を行えば多大な時間がかかる。
- **市民**は、多様な情報を十分吟味し、勉強し、意見を返すためには、多大な時間がかかる。
- **メディア**も、基礎知識を含め、事実を十分伝えるためには、時間がかかる。

17

Needing enormous energy to attain ideal public involvement・・・

- **Regulators** will need enormous time and energy, if they accomplish the public to acquire proper scientific information and then manage the regulation.
- **Public** will need enormous time and energy, if they collect and examine various information, and then make and express their opinions to the administrators.
- **Media** will need enormous time, if they want to report the multidimensional reality including basic knowledge.

18

科学的风险評価への市民参加とは？

- 幅広い市民の参加は実際的に可能なのか？
- 「全てのハザードについて」「全ての段階において」「全ての関係者」の参加を求めることが適切か？
- 「科学以外の社会的な評価」の実施が、現段階で、果たして可能か？
- ゼロリスクはあり得ないことが理解されていたとしても、どの程度のリスクがあれば受け入れられるというコンセンサスの形成が可能か？
- 全ての評価に不確実性と将来的な可変性がありながら、一方で、「わかりやすい」メッセージを要求される矛盾をどうするか？
- リスクコミュニケーションに携われる人材をどう育てていったらよいか？

19

What can be decent public involvement on scientific risk assessment?

- Is it practically possible to invite broader public involvement?
- Can we require public involvement, "For all of hazard" "in every stage of risk analysis" and "all of the public"? Is it fair and appropriate manner?
- In current circumstances, can we assess "other than scientific assessment" ?
- Will public need to build the consensus how much degree of risk they should accept, even if they can understand there are no "Zero Risk" in the world?
- Every assessments contain scientific uncertainties and variable nature. Controversially people want to have simple, easy to understand messages. How can we adjust?
- How we can cultivate experts who engage risk communication activities ?

20

皆さんのご意見を必要としています! 🐶

ご静聴ありがとうございました!



21

We need your help! 🐶

Thank you for your attention!



22